

■ 第2回 新潟市スポーツ施設の未来構想会議

～「スポーツ×拠点性の向上」に向けて～

日時：令和5年7月18日（火）14時～

会場：白山会館 2階 胡蝶

（司 会）

これより第2回新潟市スポーツ施設の未来構想会議を開催いたします。

委員の皆様におかれましては、お忙しい最中にもかかわらず、事務局から事前にお願ひさせていただきます。ご意見、アイデアの提案に積極的に取り組んでいただきまして、感謝申し上げます。本日は、その成果を基に議論を深めていただきたくお願ひ申し上げます。

それでは、以降の議事は西原会長から進行をお願ひいたします。

（西原会長）

議事（1）第1回会議ふりかえりについて、早速、事務局から説明をお願ひいたします。

【議事（1）第1回会議のふりかえり】

（寺尾スポーツ振興課長）

資料1、第1回会議で合意した事項につきまして、事務局でまとめさせていただきましたので、ご確認をお願ひいたします。

まず、1開催目的ですが、開催目的については記載のとおり、委員の皆様でご共有いただいております。2県都・政令市にふさわしいスポーツ施設とはどういった施設かというようなことについては、スポーツイベントの開催地というもののほか、防災拠点の機能も有する視点も大切だというようなご意見をいただいております。

3の想定するエリアにつきましては、ご議論いただきまして、白山公園から鳥屋野潟南部、いわゆる新潟市の中心市街地といわれるところということで、ご共有いただいております。

それから、今後議事とする論点につきましても、こちらに記載の三つの点について議論、ご意見として共有していただいているところです。

5の主なご意見ですが、一つ目は、既存の新潟の優位性を伸ばす、いろいろなすでにある施設等の優位性を伸ばすべきだというご意見ですとか、それから、大規模アリーナの必要性、それから、住民に配慮した渋滞対策ですとか利用者目線の交通インフラも重要だといったことですとか、市有施設以外の既存施設、県立施設や大学が持っている施設というものも含め

て考えたほうがいいのではないかといったような、今、代表的なものを紹介させていただきましたが、このようなご意見をいただいております。

ただいまご説明いたしました事項などを踏まえまして、委員の皆様から非常に貴重なご意見やアイデアを提出していただきました。皆様に事前にいただいております。次の議事2において、その集約したものをベースに、自由で活発な議論と専門的な知見を遺憾なく発揮していただきますようお願い申し上げます。

(西原会長)

何かご意見がありましたらお願いいたします。

ここは異議なしということで進めていきたいと思っております。

今日は(2)のところを時間をかけていかなければいけないのですが、続いて、議事の(2) 県都・政令市にふさわしいスポーツ施設についてです。この議事全体を通しまして、限られた時間ではあるのですが、まずは委員の皆様からのご意見、アイデアを尊重して、その範囲で議論を進めていきたいと思っております。

それから、前半は、資料を確認していただきたいのですが、資料2-1から2-3、ここには三つの場面があります。一つは、大会やプロスポーツ、イベントの開催日。それから、大会・イベントが開催されていない日。それから、防災時の防災拠点。これは別々にあるわけですが、まずは事務局から資料の説明、それから現状や課題に触れてもらって、その後、私たちのほうで未来に向けたコンセプト、必要な施設機能というものを精査していくことにしたいと思います。後半は、三つの場面の機能を集約する形でコンセプトなどをブラッシュアップしていきたいと思っておりますが、進め方について、よろしいでしょうか。

それでは、早速ですが、まず、資料2-1 大会やプロスポーツ、イベント開催日から、事務局のほうでお願いいたします。

(スポーツ振興課 高橋)

資料2-1から2-3は、事前に頂戴しましたご意見、アイデアをキーワードとして落とし込んだものです。お時間の都合もありますので、これすべて触れていくとやはり時間がかかるので、今、実際にはないものですか、特徴的なものを中心にご説明させていただきます。

それでは、資料2-1、大会やプロスポーツ、イベント開催日についてです。そのとき、施設の内で見えているものは、マスコミや飲食のブース、観戦しやすくトイレの数も充実し、場内の動線も分かりやすいと。また、ネット環境も良好であり、大型ビジョンもある。そして、eスポーツですとかドローンスポーツといった新しいスポーツも含め、積極的に世界的

な大会を誘致し、また、アーティストのライブも実施している。有名なアーティストのコンサートや大規模な大会開催時の課題でもある宿泊施設も併設されているというような意見が提出されております。

具体的なエリアごとですが、白山エリアにつきましてはサッカー専用スタジアム、また、既存の新潟市陸上競技場にオーロラビジョンというアイデアもあります。

鳥屋野潟南部ですけれども、こちらでは県スポーツ公園付近に新たなアリーナや野球が生まれ、音楽イベントも実施されている。白山エリアにサッカー専用スタジアムができたことによって、ラグビーや陸上競技のデンカビッグスワンスタジアムでの大会誘致が進みます。

同時に、施設の外や周辺で見えるものですが、地下鉄やモノレール、物販・飲食、観光案内所、また、高級銭湯といったアイデアもありました。イベントに合わせたマルシェや子ども向けのアクティビティが実施されている。共通して、散歩や周遊、ウォーキング、ランニング、自然、健康といったキーワードが多くありました。

さらに、白山公園から鳥屋野潟南部までのエリアで見えるものですが、南部への交通アクセス改善、新幹線、飛行機からのアクセスの充実、大規模宿泊施設、また、施設の中でイベントが実施されているときに連動したイベントがこういったエリアでも実施され、初めて新潟市を訪れた方へのアピールになるというものです。

ご意見、アイデアにつきましては、大まかで恐縮ですが、以上です。補足として、一番上の万代島エリアについてですけれども、今年度、県の港湾振興課で朱鷺メッセあり方検討調査を実施しております。10月に中間報告となっております。MICEの需要に関することや、朱鷺メッセの現状、課題分析などとしまして、これからの朱鷺メッセの機能や取組みを検討するものと聞いております。

これに関連しまして、資料3をご覧ください。朱鷺メッセを構成する新潟コンベンションセンターの利用実績です。朱鷺メッセの稼働率が高いといわれている中、さらなるMICE需要の取組みとなりますと、どこかが補完する役割を担う必要があると考えられますが、ご意見、アイデアにアーティストのコンサートというものがありませんでしたので、朱鷺メッセでのコンサート回数ですとか、その際の会場の使用状況をお示しさせていただきました。なお、これらのことですが、山口委員に、ぜひ専門的な知見からご意見をお聞きできればと思っております。

その次の資料4ですが、公表されております万代島地区の将来ビジョンといわれているものです。それ以降の資料5、6ですが、山口委員のご意見、アイデアにありました幕張メッセと川崎市の等々力緑地再編整備の概要をペーパーでお示ししております。この点も山口委員から補足していただければと思います。

その次の資料7ですが、大野委員から、第1回会議でのご発言ですとか、今回のご意見、アイデアにもありました、市内大学のスポーツ施設を簡単に一覧にしたものです。分析まではできておりません。情報としてご覧いただければと思います。イベント開催時の説明については、以上です。

(西原会長)

大会やプロスポーツ、イベント開催といったものをイメージして、皆さんからご意見をいただきたいと思っております。前回、意外と委員の皆さんから積極的にご意見をいただいて、次のステップのご意見もいただいたのですけれども、次は、日常生活的な生活の中でスポーツ施設をどう考えるかとか、あるいは防災拠点のことも考えるので、まずは大会やプロスポーツ、イベントについてのところだけを意識していただいて、ご意見をいただきたいと思っております。

山口委員、せっかくですから、今ほどのMICEのことも含めて、資料に基づいて、まず、ご説明いただければと思います。

(山口委員)

今回出されていた宿題の中でいろいろ意見を述べさせていただきました。資料を事務局から出していただき、大変ありがとうございます。

資料3から6まででしょうか、簡単にさらっと説明だけさせていただきます。私ども新潟観光コンベンション協会ですけれども、大きな新潟への経済波及、外客誘致といった部分で、MICEの開催のセールスをやっております。MICEの中にはスポーツイベントも含んでということでセールスしておりますので、冒頭に皆様方にお配りさせていただきました、こちらの「すべてのアスリートを応援できる街にいがた」というものが、私どものほうで作っております、主に首都圏と中央の競技団体向けのセールス用のものとなっております。新潟市にあります各施設の収容人数であるとか観客数であるとか、そういったものが詳しく載っているかと思っておりますので、参考までに配付させていただきました。

資料3に戻らせていただきます。スポーツを行うための施設といった中で、一つは、県所管になりますけれども、朱鷺メッセ、コンベンションセンターも忘れてはいけない施設かなと思っております。これまで、空手の全国大会であるとか、今年はスケートのイベント、羽生結弦さんも先般おいでになったところです。

また、コンサートも新潟はけっこう大規模なものがあります。東南アジアのほうからわざわざ新潟に来たといった方もおりますし、1回約8,000人の観客を入れます。ここに年間10から15件とありますけれども、1件あたり土日で1日2公演計4公演実施しますと、8,000

人かける4公演、3万2,000人です。こういった方が新潟に来られると大きな経済効果が生まれます。

なぜこれを出したかといいますと、第1回のときにアリーナの構想がありました。全国的に見ますと、やはり、アリーナでこういったコンベンションであるとか見本市をやったり、コンサートの会場になるなど複合的に使われるケースが多いので、スポーツだけを想定するよりは、やはり複合的に考えたほうがいいのではないかということで挙げさせていただきました。

次に、資料4ですが、アリーナ構想の中で、MICEとの相乗効果を考えますと、万代島というのも一つの検討の場所になるのかなということを、今回、提案させていただいたところですが、これも事務局で出していただいて、少し壮大すぎるなという部分がありますけれども、このような絵を県側が作られているといったところです。

資料5になりますが、先ほどアリーナの一例として出させていただいたのが、千葉市の事例です。ご承知のとおり、海浜幕張地域につきましては、東京の副都心計画ということで、ここ30年前くらいにゼロから造ったような新しい都市ですけれども、いわゆる幕張メッセ、それから野球場はマリスタジアムです。それから、サッカーだと高円宮記念JFA夢フィールドということで、サッカーの面が4面くらいあるでしょうか。選手、そして指導者の育成といったような、スポーツ施設についても集積しているところです。なお幕張メッセのイベントホールはコンサートであるとか大会、会議にも使われるのですが、屋内スポーツ利用の場合には、例えば、160メートルトラック、直線走路ができるとか、バスケットボールコート3面であるとか活用ができますので、いわゆる複合利用の一つの例なのかなということで、お示しさせていただいております。

最後に、資料6になりますが、ちょうど今回の新潟市スポーツ施設の未来構想会議といったところで、前回、第1回目のときに、未来、未来というと、どこまで未来を見つめればいいのか、何となくつかみどころがないみたいな話をさせていただいたところですが、こちら、等々力緑地再編整備の計画ですが、これは川崎市の事例となります。武蔵小杉駅から徒歩で行ける、緑と水を感じられる大変いいところで、川崎フロンターレの本拠地ということでも有名なところで、私も何度か足を運んでおります。ここで、川崎市の大事業として、公園としての再編整備、スポーツ施設としての再編整備ということで、こういう形で計画が進んでいるといったようなことで、こういうことをイメージしていいのかなということを、逆に事務局にお聞きしたいですし、皆様方からの目線合わせの一つの資料として使っていただければと思っております。計画が今年度から始まっていまして、事業期間が令和35年3月末までということなので、30年規模の計画ということで、大変息の長いものなのだなど

感じたところです。

私から資料の説明は以上となります。よろしく申し上げます。

(西原会長)

我々が議論を進めていくうえで非常に貴重な資料をいただいたとっております。

それでは、皆さんから忌憚のないご意見をいろいろいただきたいと思っておりますが、いかがでしょうか。

このいただいた資料を資料2-1にまとめていますが、この中で皆さんからいただいたご意見、特に私はこういうことを強調したのだということでもけっこうだと思います。施設の内側、外側ということできているわけですけども。

坂上委員、何かありませんか。

(坂上委員)

正直言って、今、山口委員からお話があった川崎市の構想などを聞いてしまうと、少し変な言い方ですけども、新潟がこれから頑張っても、やはり、東京周辺の大都市のこういうインフラ整備には勝てないのかなということが、ふと頭によぎって、むなしいなど。ただ、それはそうだけれども、新潟の拠点性ということで、我々はそれを検討する委員なので、もっと汗をかかなければだめだなという思いを新たにしたいということもあります。

どうしても、こういうことを検討すると、行政が入っていますので、予算、お金がかかる。そういう意味で、新潟県は年間1兆円、新潟市は3,000億円、等々力はこれで言うと630億円ということで、民間のお金が入っているわけですけども、そういう意味で、私はもともとが銀行出身なので、計算すると少し苦しいかなど。議論が行ったり来たりしますけれども、知恵を出して、新潟には新潟にふさわしいコンパクトな構想で人を呼べる施設を検討会で充実させていく必要があるなと思いました。

(西原会長)

関東、東京追従ではなくて、何かやはり新潟の特色を生かした形のものができるといいなと思っております。

(坂上委員)

私は市スポーツ協会という立場で参加させていただいていますけれども、スポーツ協会の、特にインドアの部門については、全国大会を新潟で開催したい。しかし、インフラがない

よねというところが一つ、競技団体の課題というように聞いています。そうすると、前回申し上げましたけれども、新潟の魅力というのは、新潟で開催することによるスポーツのイベントとしての魅力、開催側がするというような観点から行くと、地の利、要するに日本の真ん中であるとか、新幹線、飛行機、それから高速道路網も充実しているので、人が集まりやすいと。繰り返しになるけれども、基本的には本州の真ん中、日本の真ん中ということであれば、全国大会をやるにはやりやすいと。

ただ、そうした場合に、新潟の周りの県、これは失礼な言い方だけれども、山形には負けないのではないかと、施設の。ただ、新潟の手前にある群馬だとか、オリンピックをやった施設が少し残っている長野、それから北陸新幹線ができていろいろな大きな施設を造った石川等と比べて、資料がありましたけれども、どういう大きさの施設を、新潟がいわゆるライバルと見なす地方中核都市が持っているかという分析もいるのかなというのは感じました。新潟がこれだけ造ったよと、せっかく知恵を出して造ったにしても、実は、そういう横串を通してみたら、新潟よりも近い群馬県にもっと使い勝手のいい施設があったとか、遠いけれども観光地とセットになっていて、大会が終わった後に楽しめるものがあるとか、そういうようなライバルの都市と比較して、こういう建物を造って新潟のよさを認めてもらうというような視点がどうしても必要かなと思います。

(西原会長)

周辺の近県との差別化として、やはり、新潟の特色はどこにあるのかといったところかと思えます。例えば、今ほどおっしゃった、金沢はすでに大きなアリーナがありますけれども、それで、かなり向こうに行っていると。その後、金沢はやはり今、観光都市としての付加価値がとても高いから向こうに行ってしまうのだけれども、では、新潟がそこでどう打ち勝っていくのかということもあるのかなという気がします。あとは、やはり、新潟はプロスポーツが最近はとても充実しているから、そういう意味では、例えば、石川、富山などに比べると、そういったところの地の利はいいのかなという気もします。

大野委員、何かありますか。

(大野委員)

いろいろ資料とかで前回の話を受けていろいろ考えてきた中で、やはり、公共事業なので、前回も話をさせてもらったように、あったらいいなというのは、皆さん、例えば、野球のドームにしてもそうですし、これがあったらいいな、これがあったらいいなと言うのはみんな

自由だと思うのです。ただ、やはり、税金を含めて使う公共事業なので、あったらいいなど言って造ったはいいのだけれども、全然利活用もされなくて収益構造も作れませんでしたというのが、一番大きな問題なのかなと考えています。それで、前回の話を受けて、そういった意味で、前提で考えると、あったらいいくらいのレベルで税金を使って無駄に公共事業をやるよりは、ものの考え方として、あったらいいのは当然あったほうがいいので、その先の、今言ったように、税金を含めて、公共事業なので、その先の収益性を紐付けて考えていく必要があるのかなというのが一つです。

それで、前回、この資料のところでも書かせてもらったのですが、新潟の場合は、日本一の施設ではなくて、日本初の施設を目指すべきなのかなと思っています。日本一の施設というと、どうしても規模の問題だったり、大都市と戦わなければいけないので、新潟の場合は日本一の施設ではなくて日本初と、いわゆる、そういった意味では地域性に合ったものを造る必要があるのかなと思いました。

山口委員が先ほど言ったように、スポーツ施設のみならず、やはり、いろいろな意味でのコンサートも含めての利活用ということは、イコール、当然、収益性を上げるためにいろいろな多様性のある対応ができたほうがいいのかかなと思いつつながら、等々力の施設に関しては、私も何回も行ってはいますが、やはり、等々力の場合は富士通というバックグラウンドがあって、東急というグラウンドがあって、当然、川崎市と民間が組んでやっているということと、スタジアムは先ほどあったように、長崎などもジャパネットというバックボーンがあって成り立っているということがあるので、新潟の場合も、やはり、新潟市だけではなくて、パートナーになる企業をどうしていくのかということを含めて考える必要があるのかなと思っています。だから、どうしても一部分だけ、県外の大都市の施設も含めてつまみ食いして、あそこはこれで成功モデルですよと言っても、実はそうではなくて、その、ある種実際の真実の部分も含めて、よく情報として取って議論する必要があるのかなと思います。

それで、最後に、そうすると、新潟の場合は確実に収益構造も含めて読めるのは何かかなと思った場合には、サッカーのアルビレックス新潟しかないのです。どういうことかということ、ＪリーグのＪ１だＪ２だということ、必ず試合を年間何試合やってということ、実質、現段階で施設の収益性も含めて有効利用を計算できるのはアルビレックス新潟だけなのです。残念ながら、我々アルビレックスで言うと、正直、バスケットボールも若干厳しいですし、野球も地域リーグだから厳しいですし、そういった意味では、プロスポーツと言いつつながら、新潟の場合は、やはり、アルビレックス新潟のサッカーの収益構造というか施設を利用するという意味での計算は立つのですけれども、そのほかが立たないので、そこをどう考えたらいいのかかなとも思いました。

それで、少し私がかかせてもらったのが、これはアルビレックス新潟の中の社長とも少し話をさせてもらいましたし、今、北海道コンサドーレ札幌と北海道日本ハムファイターズの会場問題などもそうですし、全国的に、スタジアムの競技ごとの使用のせめぎ合いというのもうまく運用できていないことが全国的に問題になっていて、大阪の場合は、ヤンマースタジアム長居の横にサッカー専用のものを使ったので、サッカーはそこをホームグラウンドにしながら、いわゆるスタジアム自体はラグビーなり陸上なり、他のものをやれるような状況になっています。

それで、札幌でこの前、Fビレッジですか、私は行って見てきました。あれもまさに、札幌ドームをコンサドーレの会場にして、ファイターズをエスコンフィールドHOKKAIDOにしてということで、今までは、やはり、プロ野球のファイターズとサッカーのコンサドーレが札幌ドームの場所のプロスポーツ同士の収益構造のせめぎ合いがあつて、問題があつたので、北広島市と組んでファイターズがFビレッジを造つたということです。非常にそこには、先ほどもあつたように、風呂に入りながら野球を見たり、ホテルが併設しているのでホテルの部屋から野球を見たりということで、現段階では、試合がない日もそこの中にある飲食店は営業していて、観光客がそこを観光地の一つとして何千人も訪れているのです。それがいつまで続くかというのは少し別問題として、要は、試合がない日もそこに観光客を含めて集まっていると。そこに飲食を含めて成立しているという状況でした。

ただ、片一方で、すみません、少し調べてみないとあれなのですけれども、この前、立ち話レベルで聞いたのですけれども、札幌ドームのほうは野球でサッカーの部分になつただけけれども、少し札幌ドームの収益構造が、ファイターズが出て行ってしまったことによって若干厳しくなつたのではないかみたいな話があつたので、それはもしであれば後で調べてもらつて、というような状況なのかなというのも分かりました。

なので、少し新潟のほうに話を戻すと、新潟市陸上競技場については、中心市街地の場所であり、私、資料を自分で勝手に書かせてもらったのが、いわゆるスポーツビジネスというようなエリアとしてとらえて、サッカーの専用スタジアムを、もし検討できるのであれば、2万人か3万人収容のレベルのものを検討しつつ、そこをかりにアルビレックス新潟の本拠地にすると思います。そうすると、そこに立体駐車場を含めてですけれども、人を集約して集めることによって、スポーツビジネスとしての附帯的な、いわゆる賑わいも含めてですけれども、作れるのではないかと。これは新潟県にとってみるともしかしたらよくない、先ほどの話になるのかもしれませんが、新潟市にとってみると、そこに、ある意味お金を投じて施設を造つたとしても、先ほど言ったように、収益計画というのはかなり、絵に描いた餅ではなくて、計算ができるのではないかと思います。

さらに、今度、陸上とかラグビーのところで言うと、大規模大会をかりに我々が誘致しようとする、ビッグスワンがもう十二分にサッカー以外のスポーツでも大規模大会もしくは国際大会を誘致しうる施設になっていますので、もう1個新しいものを造ってほしいというよりは、今ある、県の施設になりますけれども、大規模大会、国際大会を呼んでくるうえで新しいものは別に我々は必要なくて、十二分に対応しうるものになるのかなと。

それで、今度、では、陸上の人間なので、市の陸上競技場は要りませんと言ってしまっているのですけれども、今の新潟市陸上競技場の機能を考えると、基本的には、大会を誘致するうえでの機能よりは、地元の中学生、高校生を含めて、日常的なトレーニングをする機能の施設になっています。ということは、新潟市陸上競技場がなくなることによって、何を補完しなければいけないのかというと、地元の高校生とか中学生たちのトレーニングの場がなくなってしまうので、これも私が勝手に、この前、見に行ってきたのですけれども、鳥屋野潟の北部に、ある意味、先ほどNTCは間違って南側に入れてしまっていたのですけれども、ナショナルトレーニングセンターみたいなものの、今、なくなったことによって補完しなければいけない機能を新たなところに持ってくるというのはありなのかなと。

すみません、少し細々した話になって長くなってしまいますのであれなのですけれども、要は、今の新潟市の体育施設も、決して今、既存のあるものが大規模大会とか国際大会だけのためにあるものではなくて、言ったように、トレーニングで地元の子どもたちが必要だとか、ここを潰したことによって、ほかにその機能をどう補完していくのか。先ほど言ったように、スタジアム問題というのは全国で起きているのですけれども、やはり、プロスポーツがたくさんあるところはなおさら、財源も含めてのところはかなりあるのですけれども、新潟の場合は、現段階で言うと、アルビレックス新潟のサッカーはプロスポーツとして、事業もそうですし、施設としての収益構造も読めるので、その部分はある意味押さえながら、ほかの施設のところは、多分、あったらいいなと言って莫大に造ってしまっても、先ほど言ったように収益構造を造る要素が少ないので、そこをもう少し詰めたうえで、パズルではないのですけれども、それぞれのところでうまい形のはめ込みをしたらいいのではないかと考えて、資料を作りました。

最後に、できるかできないかはあれなのですけれども、鳥屋野潟のところに、話によると、あそこに橋を架けたり何かをすると、野鳥の会とかそういうものがなかなか厳しいやに聞いたので、車が通るというよりも、人と自転車と行き来ができるようなインフラというか橋でも造ることができると、鳥屋野潟南部と北部と一体にして、いわゆる公園の機能として充実ができるのではないかと考えて、資料を作りました。

少しとりとめのない話になってすみません。そのようなことを皆さんのお話を聞きながら

思いました。

(西原会長)

分かりました。

いかがでしょうか。例えば、あまりスポーツに特化せず、今ほど収益性の話もありましたが、公益ではあるのだけれども、産業界とのつながりとかということもあると思いますが、谷川委員、何か、中山委員も何かありましたら、ぜひ。

中山委員からどうぞ。

(中山委員)

お金がある地域はいいですね。世界規模の企業があるところはこのときにお金を出せるので。新潟の場合、施設を造ってからネーミングライツをお願いしますと歩いているようなところがありますけれども、造るときから共同参画してもらえて、お金も出してもらいネーミングライツもどうぞみたいな仕組みが要るのかなとい、この等々力の素晴らしい絵を見ながら思っていました。

やはり、収益は非常に大事なところだと思います。造るところまでは多分、一生懸命出してくれるところは出してくれるのでしょうけれども、結局、収益性がないと、維持していくことが難しくなる。そこで収益を上げようというわけではないけれども、そこに人が来てくれて、賑わいを創出しているからこそ、参画している企業も名前が看板についたり、いろいろなどで見られる機会が増えてきて、CMになると思うのです。

さて、話を少し戻しますと、今、皆さんがおっしゃったことはもちろんなのですが、これはスポーツ施設の未来構想会議ですので、今回、私の提案の中にも入れておりますが、これから先に流行るスポーツというものも非常に重要だと思うのです。今までのサッカー、バスケ、野球、テニス等々、延々と続いてきていてみんなが大好きなスポーツはもちろんなのですが、うちの若いスタッフから意見を聞いてきたのですが、ドローンスポーツやeスポーツなども、少しとらえながらやっついていかないと、未来に残る施設としては少し厳しくなってくるかなと思います。

資料にもLED大型ビジョンなどが書いてありますが、デジタルサイネージとかLED大型ビジョンとかが果たして将来的にどういうものを活用するのが一番いいのかという検討も必要でしょう。めまぐるしく技術進化が遂げられている中で、こういうものにどこまでお金をかけるのか、非常に難しい話なのではないかと思うのです。ただ、アリーナの設置いつ頃を目途にしてやっついていくかで言うことが変わらな思っていました。10年後くらいから着

工することを目途にしていくのか、50年後の夢を語りましょうなのかで言うことが変わるだろうと思っています。

(西原会長)

前回は議論があったように、何年後というイメージがなかなかつかないと、特に、非常に今、スポーツの世界も変化が激しいので、オリンピックでもニューススポーツとかXスポーツなどもどんどん出てきていて、これから恐らく、身体性を越えたところの超身体性みたいなところでオリンピックなども考えていくということを考えると、やはり、それも速いテンポでこれから進んでいくと思うので、その辺も視野に入れながらになってきています。

谷川委員、何かありますか。

(谷川委員)

お疲れさまです。皆さんのお話が私の想像以上というか、私の頭がまだついていけないというか。私の理想はたくさんあるのですけれども、やはり、行政と絡むということで、予算などもあるので、その先というか、先ほど坂上委員からもあったように、県外、近隣の施設だったりとかもまだ全然よく分からないので、少し調べてみたり情報をいただいたりして、大野委員が言っていたように、日本一ではなくて、日本にないような施設というのはとてもいいなと思ったので、そういうものを皆さんで見つけながらしていったらいいのかなと思います。

(坂上委員)

先ほど申しあげましたように、私はスポーツ団体の代表という立場もあるので、少しタームの短い部分でお話ししたいと思います。

やはり、インドアのスポーツです。先ほど申しあげたバドミントンとかバレーボールとかバスケット、それらのインドアのスポーツについては、2巡目新潟国体で優勝しましたがけれども、それ以後全然、新潟県は勝てていないと。それで、その一つには、やはり、ジュニアを強化しなければならないということをスポーツ団体の皆さんは本当に考えています。ジュニアの強化では、日ごろの練習を一生懸命見てやるというのも大事ですけれども、やはり、全国大会を誘致して、3年後に新潟で大会をやるので、そのときに中学3年生であれば今の小学校5年生、6年生を集中して強化すると。それで、全国大会で勝ってもらって、その後、高校なり大学に行って、あわよくば新潟に帰って指導者になってもらいたいと。一気に通貫でジュニアから社会人までと。その中には、社会人になったときに新潟の企業で就職できるよ

うな仕組みがあるのだろうかという話をします。そうすると、今の競技力を一等早くするには、やはり、全国大会が開催できる施設がほしいというのが競技団体の共通する声だと思います。

それで、これは前に議論しましたがけれども、残念ながら新潟市には、県にもですけれども、全国から集めて一堂に会してやれる会場がないのです。県立体育館がないということで、新潟県も新潟市に県立体育館を造るつもりはないという話もちらっと聞いていますけれども、ただ、競技人口が多くて競技役員が多いのはやはり新潟市ということになると、新潟県で全国大会をやるとなると、やはり、一番のインフラ以外の人的資産といたしますか、運営やアクセスを考えると、やはり、新潟市ということになります。

それで、最初の話に戻りますが、少し先ではなくて、今、新潟県の競技力、特にインドアの競技力を高めるとか、スポーツを盛んにしていくためには、やはり、インドアのアリーナがぜひ必要だというのは、スポーツ協会の、先ほどはプロという話がありますけれども、アマチュアの団体ではその希求が非常に強いというのはこの場で少し申し上げておきたいと思います。

(西原会長)

先ほど、収益の話もあったのですがけれども、実は、人口の流入、流出のところで、各都道府県に大規模スポーツ施設があって、そこで国際レベルあるいは全国大会をやっている都道府県から子どもたちが外に出て行く、いわゆる 18 歳になってです。それから、今度、戻ってくるというところの、実は、相関があるのではないかといわれています。そのところはまだ検証されていないのですがけれども、スポーツインパクトというのですが、その辺を特に新潟県は流出する可能性がかなり大きいのですが、子どものときにそういういろいろな大会を見ておくということで、実は、新潟にいればこれだけスポーツを見て自分たちでスポーツをやる、プレーするといったところで、流出を避けられるという研究をやっている人もいます。そういうことも、やはり、経済的な面だけではなくて、非常に大きいかと思います。

皆さんからご意見をいただきましたが、山口委員、私的な、プライベートなご意見はありませんか。先ほど説明だけしていただきましたけれども。

(山口委員)

川崎と千葉の事例、知り合いもいるものですから大きいものを出してしまいまして、少し反省しています。

本題に戻るのかどうかなのですけれども、今日のテーマが大規模大会、プロスポーツということで、どうしてもスポーツ施設の未来構想となってくると、箱物、ハードありきの議論になっていきがちかなと。ただ、やはり、新潟はこれまでサッカーとか陸上競技とか、全国規模の大会が来てくださっています。サッカーも今年はたしか日本代表、キリンチャレンジカップになるのでしょうか、久々に開催との話もあります。やはり、その背景には、県のサッカー協会であるとか陸上競技協会だとか、全国大会の誘致に非常に積極的でいらっしゃる。なので、我々も首都圏の競技団体にセールスに伺う前に、それぞれさまざまなスポーツが多いですけれども、地元の団体、協会にお話をお聞きして、誘致する意欲はどうでしょうかということを探りつつ、首都圏の競技団体等に行っております。

何が言いたいかというと、箱だけではなくて、では、現実的に新潟にどういう大会を誘致できるのか、意欲があるのかということ整理してから、新潟らしいスポーツ施設をどのように造っていくのかということ、一つは身の丈に合ったということをやっていく必要があるのかと思います。高校生のレスリングでしたか、風間杯は毎年、レスリングの甲子園は新潟なんだみたいな、少し知名度が足りていないのかもしれないですけれども、いわゆる高校生の聖地は新潟市にあるといったようなところもありますし、どういう競技を持ってこられるのか。

先ほど中山委員が言われたとおり、どういう競技を新潟が持ってこられるのかということを含めて、どういう施設、箱が必要なのかということ整理していかないといけないと思います。

また、大野委員が先ほど、新潟市の陸上競技場はやはり地元向けだよねというのは、まさに私もそのとおりと思っています。うちの息子も、高校、大学も新潟だったのですけれども、トレーニングというと、学校でもできるのですけれども、やはり、体力作りといった部分では陸上競技場に通っていましたし、大規模なプロスポーツ、全国大会はビッグスワンにお願いするとしても、やはり、地元の学生たちとか中学校とか小学校の総体なども開かれますし、そういう受け皿も考えていかないといけないのかなと思っています。

あと、個人的なことを付け加えると、私はラグビーの観戦も大好きで、県外に見に行くこともあるのですけれども、陸上トラックがある競技場はやはりいやなのです、距離が遠いし、臨場感がないし。そういった意味では、新潟といえばサッカーというのであれば、アルビだけではなくて、ほかにも高校生とかユース大会みたいなものも過去にあったかと思うので、球技専用の競技場というのもほしいなということを付け加えさせていただきます。

(西原会長)

箱物より、やはり、ネットワーク、新潟とどういう競技団体とのネットワークがあるのか、また、山口委員のコミッションなどはそういう役割を果たしているのですけれども、そういった面。そういったものをいわゆる資源としてどう生かしていくかはとても大事です。

(大野委員)

すみません、情報提供なのですけれども、今、山口委員がおっしゃったように、陸上の話をする、我々、多分、日本選手権でも、正直、国際競技場なので、アジアレベルの大会でも呼んでくることは十二分にできます。ところが、今、陸上の話をする、ビッグスワンが、先ほど言ったように、どうしてもＪリーグのサッカーのホームグラウンドになっている関係があつて、そのスケジュールでなければ我々が入れないという現実の状況があるので、どうしても大きな大会になればなるほど早い段階で施設が使えるか使えないかという現実があります。今、多分、ラグビーもそうでしょうけれども、サッカー以外の大規模大会を持ってくるもの、今の問題点は、サッカーのＪリーグと書いてしまっているのが問題点としてあるので、かりにその部分が解消すると、ある意味、現場の人間としてかなりいろいろな大会を持ってこられます。

それは新潟の問題というよりも、実は、これは日本陸上競技連盟の問題でもあるのですけれども、来年のパリオリンピックの最終選考である日本選手権の、実はもう1年を切っているのですけれども、場所がいまだに決まっています。だから、これは新潟の問題というよりも、けっこう、先ほど言った全国的な問題があつて、それもなぜかという、実は新潟ではなくて、別のスタジアムのほうで開催するという事で内々に動いているのですが、言ったようにＪリーグのスタジアムなので、いまだ現段階でそこが使用できるかがまだ確定してなくて、1年を切っているにもかかわらず、日本陸連でさえ会場を決められないというか発表できないという状態になっています。冒頭、少し話をしたように、全国的にスタジアム問題があるので、その辺の課題解決をすることを考えてもらったらいいのかなと思います。

あと、皆さんおっしゃるように、先ほど中山委員が言ったように、何年スパンでやるかというものがあるのですけれども、これは新潟市の施設でいうと、先ほどネーミングライツという話をしましたけれども、できた後にそこから取ろうとするとマーケティング上厳しいので、先ほどおっしゃったように、建設の前の段階で、ある意味、スポンサーライセンス、アクティベーションをある程度固めた中で、施設を造っていくというのは、先ほど言ったようにネーミングライツの、川崎は多分、もう富士通とか川崎市とか東急が施設を造る前段階でかなり調整をして握りながら情報共有して、それに向けた施設を造ろうとしているというの

が現状なのです。新潟市はこのタイミングで、言ったようにネーミングライツが取れるようなことも踏まえたうえでの計画というものは、逆にチャンスだと思うので、やられたほうがいいかなと思います。

あとは、アーバンスポーツなどがあれて、北越工業がついてAIRMANスケートパークという形でやっていますけれども、全国的に、Fビレッジ、エスコンフィールドに行ったら駐車場にまでネーミングライツをしていました。駐車場はブリジストンパーク。それで、スタジアムがエスコンで、中に入るとオロナミンCボックスかな、それぞれのボックス席にもすべてネーミングライツを取りながら、子どもが遊ぶところについてもネーミングライツを取ってやっています。それで、今度、新潟の、我々が陸上をやる9月、10月のグランプリの大会も、今までデンカ株式会社が冠で、デンカアスレチックスチャレンジカップというネーミングだったのですけれども、今年からヨギボーがついて、ヨギボーアスレチックスチャレンジカップということで、今年、新しい冠スポンサーがついてスタートします。

それで、何が言いたいかというと、新潟の地場の企業だけではなくて、やり方によっては新潟市、新潟県以外のナショナルクライアントもつくようなことも想定したうえで企画を作っていくというのにはありなのかなと思いつつながら、先ほど皆さんが言ったように、新潟は大きな企業がないからなかなか厳しいよねというお話がありましたけれども、逆に言うと、新潟の企業ではなくて新潟以外の、ある意味でこれはナショナルクライアントであったり、世界企業がくっついてくれるような、アクティベーションも含めて考えてみてもいいのではないかと、すみません、長くなりましたが、皆さんの話を聞いて思いました。

(西原会長)

広い意味で、それぞれの企業がこれから世界戦略を打っていくとか、どういうコンセプトで企業を大きくしていくかといったことを考えると、うまくそこに乗っていくと、かなりいろいろなスポンサーが取れるのではないかとということですよね。

ありがとうございました。まだまだいろいろお話を聞きたいのですが、次に行ってもよろしいですか。プロスポーツ、イベントは大体よろしいでしょうか。関連していますので、後ほどまた関連したところでお話を聞かせていただいてもけっこうかなと思います。

続いて、大会・イベント等が開催されていない日、いわゆる日常的なところでのスポーツ施設のあり方ということで、また事務局からお願いします。

(スポーツ振興課 高橋)

それでは、資料2-2に進みます。大会やプロスポーツ、イベント等が開催されていない

日です。

そのときに施設の中で見えるものが、見学したくなる、遊べる場所、オランダ・フローニンゲンにある、写真にあるようなコミュニティの拠点、交通拠点、ショッピング、医療、保育、教育機関などが併設されていて、イベントがなくても必然的に人が訪れるようなところ。平日はシニア層、休日はそこに若者、家族連れが加わると。

また、スポーツ施設ですので、スポーツの話においては、平日はシニア大会ですとかジュニアの競技会。また、個人開放などで人が訪れる。そこに休日は市民大会ですとか競技団体主催の競技会という形の意見です。

施設の性質としては、全天候型、また、通年型というようなご意見。屋内練習場の充実。また、先ほど大野委員から少しお話がありましたが、トレーニングキャンプが盛んに行われるということで、トレーニング特化型競技場というアイデアもいただいております。

また、鳥屋野運動公園と鳥屋野潟南部をつなぐ橋というアイデアも出ております。これは国際、全国大会のみならず、合宿、キャンプの利便性も大幅に向上するものだろうということです。

同時に、施設の外側や周辺に見えるものは、資料2-1と共通しているものが多かったのですが、特徴的なものとして、ウォークアブルな町、また、公園、憩いの場、ランニング、多目的スペースと、先ほど出ましたトレーニング特化型の施設に附属した宿泊、食堂、治療施設などです。

また、最後、広く取った白山公園から鳥屋野潟南部までのエリアでは、先ほど、イベント時に連動してこういったエリアでもイベントを実施して、新潟を初めて訪れたお客様の獲得というものがありましたけれども、イベント時のお客の獲得が商業活性化へつながっていくと。また、スポーツ施設が交通拠点として機能することで訪れやすい場所となり、ひいては人が集まりエリアの価値が向上。にいがた2kmの政策と相まって、このエリア全体が目目、人気のエリアへというようなご意見をいただきました。

(西原会長)

それでは、大会、イベントが開催されていない日という考え方があるかなというところで、ご意見をいただきたいと思っております。

中山委員、オランダのフローニンゲンは、何か意味があって。

(中山委員)

平日はリタイヤした方々が、自由な時間のある人たちが通えるような施設が多いのです。

新潟でも、随分前からですけれども、定年になって何が楽しいかと言ったら、毎日のように新潟テルサのスポーツジムに行っているということとか、あと、鳥屋野体育館に行つてずっと歩いているとか、そういうことが楽しくて仕方ないという先輩がとてたくさんいたのです。それを聞いていると、有料無料はさておき、楽に車を止められてすぐに使える施設というものがあると、皆さん意外に運動なさるのだなと思ったのです。それまで、現役のころには運動なんてしたことがありませんという人たちがみんなテルサに通い始めたというのを聞いたりしていると、そういう施設があると非常にいいのかなとは思ったのです。

特に、テルサは鳥屋野潟の南エリアに属していて、そういう施設を造ると、それだけでも人が集まる理由になるのだなと思いました。車が止めやすく、家族でも来られて、おじいちゃんはジムに行っています、おばあちゃんと孫は公園で遊んでいます、お父さんは友だちと一緒にサッカーやっていますとか、さらに食事やショッピング、医療も充実している、そういうことも可能性として広がっていくのかなと思って、これをあげています。

(西原会長)

いわゆるスポーツのクラブライフというものが充実するという施設ですよ。

(坂上委員)

今、中山委員が言われた世代にもうすぐ入る、私は来月からは毎日が日曜日になるのです。まさに言うとおりでなと思います。

それで、スポーツに関して言うと、やはり、シニアの方が、先ほどのジュニアとは逆に、日本一とか新潟県一ということではなくて、健康維持のためにスポーツをします。それで、いわゆる定年退職された方は毎日が日曜日なので、イベントがない日も動けるということになると、そういう方々に利用してもらう施設、使いやすい施設があると、これは料金をいくらにするかとかそういうものは置いておきますけれども、前から言ったように、施設というものは、造ったはいいけれども使う人がいないというのが一番高コストなのです。いくら安く造っても、使う人がいなければ、行政としてもうかるもうからないかは別にして、意味のない施設と。けっこう高いけれども、市民の方がものすごく使ってくれるというのであれば、それは行政的には安価だと思います。

ということになると、シニアの方は、新潟市はこれからどんどん増えてくるので、競技がないときに利用してもらうターゲット先はシニアですということになると、例えば、午前中は体育館に行つて、その周りで食事をして、その後に映画を見て帰ってくるとか、散歩しながら帰つて来るといふような、日がな一日使えるような、これは施設単独では無理なのです。

けれども、そういう場所を造って、例えば、今、信濃川の堤防を歩くと、萬代橋から何キロという表示がありますよね。あれをずっとまちなかも含めてこういうふうに戻るといろいろなものが見えますよ。これはシニアの人というよりは、県外から来た観光客なのですから。

たまたまこのあいだボストンに行く用事というか、娘がいるので行ったのですけれども、ボストンのまちなかは、観光地に行くまでにそこだけちょうど目の悪い方の案内みたいな形で、そこをたどっていくと、ボストンのいいところは回れるような仕組みがあるのです。新潟で言えば県政会館があって、図書館があったり、それから独立記念日のどうのこうのというもの。そこを回ってあげればいい。そういうような工夫をすると、シニアの方の散歩、それから、県外から来られた方も、今は大会も、我々のころは負けたらすぐ帰ると。旅費出ないし。最近は少し豊かになっているので、負けても一日二日、せつかく来たのだから新潟でのんびりしようと。しかし、行くところはないよねというような課題もあるわけです。

それで、そういう面で行くと、少し話が飛んで申し訳ありませんけれども、新潟は金沢になんて絶対にかないません。鎌倉とかそういうところに比べると。では、新潟はどのようにそういうところに勝つかというと、小さいところをつないで、こんなところもある、こんなところもある、税関もある、會津八一の記念館もあるというように、小さいけれども少し光るところを案内するようなルートを決めてやらないと、例えば、金沢だとお城一発と新潟の税関を比べたら歯が立たないと。白山公園と兼六園を比べても歯が立たない。しかし、白山公園とどこかとどこかを比べればいいじゃないというような作戦もいいのかなと。少し今の議題からは逸れますけれども。

戻しますと、私が家内から言われているのは、一生懸命働いてご苦労さまと、会社辞めてもいいですよという話になったのだけれども、でも、あなたの昼ご飯は作らんと言われたのです。向こうは向こうでやることがあるし、そうすると、私としては、体育館に行って汗を流したあとに、少しご飯食べるところを探さなければいけない。場合によっては温泉施設に入って、風呂を浴びて家へ帰って、奥さん、夕飯は作ってくれるので、夕飯食べたなら寝るというパターンにならざるをえないなと思って、そういうようなシニアの人をトータルで楽しませる仕組みを行政で作るといのも一つの手かなと。少し脱線した要素もありますけれども、そんな感じです。

(西原会長)

資料2-4、私が提案したものがここにあるのですけれども、これは先ほど中山委員からお話のあったこととか、あと、坂上委員からも今お話のあったところが、少し写真を入れて

いますが、これはドイツの、私がずっと住んでいたところ、ライプチヒという町なのですが、下のところを見ていただくと、ドイツのこの町はけっこう北のほうなので新潟より寒いのですが、冬にこれだけ人がまちなかを歩いているということです。

あと、左上に体育館が、真ん中でしょうか、載っていますが、ここもいわゆる昼間、高齢者を中心に来ているのですが、ここが少しすごいなと思うのは、例えば、日本だと体育館は緑の網で仕切っていますよね。ヨーロッパは大体、ちょうど仕切っているものがありますけれども、これはボタンを押すとパーティションが出てくるのですが、右と左側で音を出しても、見えない壁になっていて周波数を変えるのです。そうすると、体育館の中でこちら側はエアロビクスをやっていて、こちら側は違う運動をやっていても、音楽が聞こえないようになっているのです。しかし、同じ空間の中でやっていると。

それから、右上のほうにあります。これは坂上委員がおっしゃったように、やはり、体育館にレストランとかそういうものが 24 時間でやっていて、好きなときに運動をした後にビールを飲んで食べ物を食べて、みんなのコミュニティが成立しているというようなものがあるので、やはりこういうものが、必ずしも海外のほうがいいというわけではないのですが、日常的にこういうクラブライフができるというのはとても大事なのではないかと考えて、参考までに出しています。

ほかにいかがでしょうか。

大野委員、何かありますか。

(大野委員)

西原会長がヨーロッパのほうで、私も 10 年以上ずっとヨーロッパ、何戦も選手を連れて回ってきましたけれども、ヨーロッパのほうは、やはり、スタジアム機能とパーク機能がけっこうはっきり分かれていて、先ほど言ったように、新潟市の施設も、例えば、ビッグスワンが陸上で言えば国際大会、大規模大会をやるので、市の陸上競技場は地元の高校生のトレーニングを中心になっているということで、施設を全部一括りで考えるのではなくて、それぞれの必要な機能を、やはり、整備する必要があるのかなと思います。それは、先ほど言ったように、ヨーロッパだとかうだよというけれども、しかし、ヨーロッパのオリンピックをやったり何かやる大規模スタジアムというのは、なかなかこういう機能ではなくて、パーク型なので、私も選手を試合に連れて行って練習に行ったけれども、芝生の中で幼稚園児がピクニックでお弁当を広げて、ちょうどパークの機能なのでやっていて、選手たちが練習できないので、畑に向かって円盤を投げさせたこともありました。

あと、パーク型だと、ヨーロッパなどは鍵の管理なども、併設している、先ほど言った

24 時間営業のパブのおじさんが施設の鍵の管理をしていて、我々が使うのにパブのおじさんのところに行って鍵を借りて使うみたいなこと。だから、どちらかというと、パーク型の施設というのはけっこう数があって、スタジアム型のものやはりそれほど数は多くないのです。案外、パーク型の大会のときにもすごい選手が来るような、本当に古い競技場なのですけれどもすごい大会を開いたり。

さきほど言った併設しているパブというのは、施設用のパブではなくて本当に近所のパブで、普段から営業していて、本業はパブなのですけれども、併設しているので、大会のときも外に椅子を出してやっている。ただ、イベントのときだけではなくて、日常もそのパブの人は近くに椅子とテーブルを出して、それは近所のお年寄りが歩いてきて、お酒を飲みながら、練習しているクラブチームの子どもたちに声をかけながら練習を見ているみたいなものがヨーロッパでは、先生もご存じだと思います。

何が言いたいかというと、施設自体の機能というものを、求めるものを一緒にしないで分けるということと、あと、言ったように、分けると同時に、そこに併設する、飲食でもいいのですけれども、そのイベントがあるときだけに機能するのではなくて、日常的に本業としては飲食、販売店、そういったものが通常機能していて、イベントのときに逆に連携ができるというような発想のほうがいいのかなと。日本のスポーツ施設は、飲食店のエリアとかもそのイベントのときだけ出店するみたいなものがあるのですけれども、例えば、サッカーでもラグビーでもVIPルームがあったほうがとって、試合のときに内部にあってそのときだけ機能するVIPルームではなくて、通常は外向きに普通に飲食として機能していて、ただ、施設内に作っておかなくても、ガラス張りにしておいて中の様子が見える状態にしておけば、イベントのときはそこを貸し切りにしてVIPルームにするという、その発想が逆なのです。だから、日常は本業レストランをやっている、逆にイベントのときにそこがVIPルームに変わるみたいな形の考え方を持っていないと、多分、入店する業者もいなくなりますし、こちらがお願いして出してもらっても、採算が取れないからいやですよみたいな。むしろ、イベントのときにプラスアルファもうける、稼げますみたいな発想がいいのかなと思います。

あと、私が書かせてもらったように、今のビッグスワンもそうですしHARD OFF ECOスタジアム新潟もそうですし、案外、皆さん、民間の人も含めてなのですけれども、会議室で年間けっこう借りたりして、スポーツ関係者のみならず、民間の人も会議室の利用などはしている、そういうような収益構造もすで実績があるので、ありなのではないかと思いません。あとは、事務所機能、民間のスポーツに寄せるのもありだと思うのですけれども、それ以外の事務所を貸すような機能を持たせると、ある意味、月々の家賃収入という計算できる

収益構造も作れるのではないかと。鳥屋野運動公園球場を見に行ったときに思ったのですけれども、ものすごく道具を片付けたりするスペース、鳥屋野球場にはあるのです。あれも貸倉庫みたいなものをやったら、もったいないなと思って見ていたのです。

あとは、先ほど言ったように、例えば、白山のところにサッカー専用のものを使ったときに、今度は駐車場が必要になるので、場所的に立体駐車場などを造って、市営にするのかどうするのかは別にしても、そうすると、例えば、サッカーの試合をやるたびに駐車場でも収益構造が作れるようになりながら、スタジアムのレギュレーションを聞いたら、スタジアム内に大型映像装置を作る必要はないのだそうです。例えば、Jリーグなどでも、観客からしっかり見える大型映像装置があれば、スタジアム内にあるかどうかは別なのだそうです。そういう発想からすると、サッカースタジアムの脇に立体駐車場を造っておいて、そこでも収益構造を造りながら、立体駐車場の壁面に大型映像装置をつけてしまえば、ある意味、施設内に無理矢理造る必要もないので、今までの既成概念というよりは、案外、レギュレーションを聞いてみると、相乗効果が出せる仕様がやれるので、先ほど言ったように、日本一の施設ではなくて日本初の、効果的な施設というものもいいのかなど。言ったように、事務所であつたりオフィスであつたりといったものの機能があつたときに、それだけでその従業員を含めて集まってくるから、何かそのような、こうでなければいけないという、どちらかというと思込んでいる部分があります。先ほど言ったように、ヨーロッパがこうですよと言って一部分だけ切り取ってしまうと、多分そうではないと思うので、その辺少し、また後で情報を出させてもらいますけれども、一応、そのような状況です。

(西原会長)

いろいろな案をお持ちなので、ぜひ、お聞かせいただきたいと思います。

ほかにいかがでしょうか。

谷川委員、何か言いたそうな。

(谷川委員)

全部出てしまっているのですけれども、一つだけ、シニアの方はジムだったり、一般の方々は飲食ブースがあつたらいいなというものもあるのですけれども、新潟はけっこう天気が悪い日が多かったりするので、子どもたちが外で遊べないときは何か利用できる施設があると、一緒に利用できる施設があるといいかなというのは一つ思いました。

(西原会長)

そういう意味では、高齢者と子どもがある程度ターゲットにはなるのだろうなという気はします。

(山口委員)

スポーツ施設で大会が行われていないときという、ストレートに考えると、公園かなと思ってしまうのです。それで、今の新潟の姿を見たときに思い浮かべるのが、西海岸公園、それから鳥屋野潟南部のスポーツ公園、それから東区の竹尾インターのすぐ近くの寺山公園の三つを思い浮かべます。三つとも、実は姿が違って、西海岸公園のところはスケートボードもできる。また、つい先日、バスケットも3×3のコートができました。若者たちや家族がバーベキューもできるという形で、そのような使い方をされているし、また、脇には野球場があるので、小学生が少年野球で、親子がわいわいしながら、終わった後にお弁当を食べているというイメージが強いです。

それで、鳥屋野潟南部のスポーツ公園は、けっこういいランニングコースがあるのです。木のチップを敷き詰めたような、私は膝が悪いのであそこを愛用していて、最近はやさびってあまり行っていませんけれども、それからあとは、ペットを連れた方とか、やはり子ども連れ、駐車場がありますし、レストランもあるから、家族でといったイメージをしています。

それで、寺山公園なのですけれども、これは東総合スポーツセンターすぐ隣にできた新しいところなのですけれども、先ほど谷川委員がおっしゃったとおり、あそこはまさしく子育て支援施設を併設してしまっていて、子どもを預かれたり、遊具も揃っていたり、貸し会議スペースとかそういったものもあったのではないのでしょうか。何かというと、新潟の冬にとっても対応していますよね。休日になると、周りの駐車場の想定を超えて車が止められないので、ぐるりと農道みたいなところに車がみんな止まっているといったような、大型遊具もありますから、本当に多くの市民から使われているのかなという気がしています。ほか大野委員、どうでしょうか、ランニングステーションというものが新潟に不足しているのかなと思っています。

少し東京にいたこともあるのですけれども、私も皇居ランをやっていました。けっこう周りに、民間でランニングステーションといって仕事帰りに着替えてロッカースペース、シャワースペース、それから場所によっては飲食でお酒も飲めるよというところもけっこうあって、そういうところがあると、運動して汗をかいても気持ちよく、飲食も含めて帰れるみたいな形で。朱鷺メッセのところにありますけれども、そういったものが新しくできる拠点エリアにあってもいいのかなと思います。

(坂上委員)

一つだけ、追加で。

先ほど、新潟ではなかなか、小粒なものでほかのいわゆる有名なところには勝てないというお話をしましたが、私はずっと新潟に住んでいます。それで、やすらぎ堤は素晴らしいと思うのです。あれは日本一と言うと少し問題があるけれども、ベスト5には入るだけの整備がされているなと思います。国のお金が大半で入っていると思いますけれども、あそこは、今ほどあったように公園的な機能もあるし、ウォーキングは盛ん、ランニングもできる、それで、景色もいいと。あれを、今ほど言ったような考えでいくと、新潟市としては有効に宣伝する手はあるなと思いました。それを先ほど言うのを忘れたので、補足します。

(西原会長)

多分、今日、お話の中に、公園と一体となったということもとても大事だし、あとは、山口委員、東総合スポーツセンターの周りは本当に子どもたちと家族がターゲットですね。それで、多分、中央というか、新潟市役所のあの辺は、多分、やすらぎ堤と一体となった使い方ができるとかという、何かエリアによって違うのではないかという気がします。ありがとうございました。

では、時間があと 20 分くらい、もう 1 個、防災がありますので、最後、防災のところをやっていきたくと思いますので、では、すみません、よろしくお願いします。

(スポーツ振興課 高橋)

最後、資料 2 - 3 です。防災に関しては、自治体に策定が義務づけられております地域防災計画がありまして、防災の専門的なことは将来的にはそこに委ねることとして、まずは、委員の皆様のご意見、現状、事例を説明ということにさせていただきます。

資料 10 をご覧ください。鳥屋野潟南部開発の最新のイメージ図です。県のスポーツ公園は広域避難場所や一時避難場所になっており、近接する商業施設からの物資の提供、また、高速道路による物資、マンパワーの集積が容易な土地であることが分かります。また、資料の左側、新潟市民病院、新潟市消防局もあり、県の内外で大規模な災害が発生したときの防災、また、救援の拠点として最も適した場所と考えられます。

次に、資料 11 をご覧ください。この資料ですが、スポーツ施設が災害の対応拠点として利用された実例として、福島 J ヴィレッジがあげられます。福島第一原子力発電所事故の対応拠点として、自衛隊、消防、東京電力などの関係者が集合、そして出発した地となりま

した。少し簡単に触れたところです。

これらを踏まえまして、資料2-3、ご意見、アイデアを見ますと、スポーツ施設及び併設する公園を最大限生かして、物資の備蓄や集積、また、コミュニティ機能と宿泊機能という話が前段の話にもありましたが、その宿泊機能を防災時でも発揮することができるのではないかという意見をいただきました。こちらは簡単ですが、以上です。

(西原会長)

では、最後、防災拠点としてということですが、ご意見がありましたらお願いいたします。多分、新潟市ではそれぞれスポーツ施設が防災拠点になっていたりするのですが、むしろここではとても広域的なことになるのかなという気はします。

(大野委員)

逆に、新潟市にお聞きしたいのですけれども、もともと学校の体育館とかスポーツ施設は、昔から防災の、避難場所も含めてなるのが何となく普通の感じなのですけれども、多分、今、災害のときに避難場所として必要になるものが一時と違って変わってきていると思うのです。その辺はどういう認識でいらっしゃいますか。

(寺尾スポーツ振興課長)

やはり、地域の防災拠点としては、災害時に、何日間になるか分かりませんが、人がとどまる施設ということになりますので、それも季節を問わず集まらなければいけないというところがありますので、そういった寒さ、それから風雨をしのげて、それから、ある程度備蓄ができる場所。それから、今、一番大きいところが、どうしても中越地震のときからトイレ問題というものがあまして、トイレが収容人数、想定の人よりも多くの方がとどまる可能性もありますので、そういった環境の整っているところが避難場所になるということもあるのですけれども、どうしても災害時は交通インフラが止まる可能性もありますので、今のところは、やはり、お住まいの地域の学校であったり、そういったところが主な避難場所ということになります。

新潟市の体育館ですとか陸上競技場についても、東日本大震災のときには福島からの避難者の方が新潟市体育館に避難されていたという実績もありますので、そういった地域というよりも、私どもの持っているような体育施設については、もう少し大きい災害があったときの救援拠点のほうが、今の体育施設については使われることが多いのかなと考えております。

(大野委員)

私、ぱっと、今現在の災害で、食料とかは当然ながら、電気とネット環境なのかなと思っています。やはり、スマートフォンも含めて、安否の確認もそうですし、それに伴って電力の部分が、どなたかも提案があったのですけれども、今の災害は通常の災害にプラス、今言ったように電気とネット環境をどう確保するかということなのかなと思っています。新潟市の施設に、できればそういうような災害時の機能を持たせることによって、ものすごくいいのかなと思います。

あと、逆に、今、国を含めて助成制度がどうなっているのか分からないですけれども、一時は、今もそうか、逆に帰宅難民を受け入れられる施設を併設すると、ある意味、そこに対しての国の予算が付いたり、先ほど、ネーミングライツの話をしましたけれども、電力とかWi-Fiみたいなものを、ある意味、付け加えることによって、ナショナルクライアントとの連携で日本初の施設を造ったり、そういうようなことも何かできるのではないかと思います。

(坂上委員)

今の話の延長で、リスク管理という意味で、先ほどご説明のあった新潟に災害があった場合というのは、例えば、公民館だとか学校だとか、いろいろな施設が指定されていますよね。その充足率というか、現状の施設ではまだ不十分なのでしょうか。この施設を防災拠点としてメインで見る必要があるのか、あくまでもスポーツ施設だとかほかの施設として利用しておいて、いわゆる緊急的なときにこれを利用すると。メインではないけれども、あるものを有効利用するという考えで防災拠点としてとらえるのか、いや、絶対数が足りないので、何かあったらこれがメインですよという。そこが少し見えないので、今のお考えを聞かせていただければと思います。

(寺尾スポーツ振興課長)

申し訳ありません、充足率については私どもも把握はしていませんけれども、新潟市の地域防災計画となりますと、やはり、先ほども申し上げましたとおり、地域の身近な、今、坂上委員がおっしゃったような公民館ですとか学校などが避難場所に指定されていて、新潟市の住民の方は、基本的にはそちらの学校ですとか公民館に避難していただくというのが基本になっています。

それで、体育館ですとか、市が持っているような大きい体育館等は、もちろん緊急時には、

津波が来るとか、ここに逃げられる方はいるかと思うのですが、基本的には指定されていません。ただ、どうしても、以前、少しあったのですけれども、新型コロナウイルス感染症が流行したときに、皆さんが使う避難所に新型コロナウイルス感染症に罹患した方が避難するとそこで大流行するおそれがあるということで、そういった方を一時的に別のところに避難していただくということで、公民館とか学校とは別で体育施設等の一室をそこにあてられないかとか、そういうような考え方もあったりしますので、やはり、基本的なところというよりも、何か別な不測の事態があったときとか、そういったときの想定に今のところはなっています。

(坂上委員)

分かりました。

(西原会長)

これは多分、新潟市内で何かあったときというのはあれですけども、本当に東日本大震災みたいに、まさに北陸全体がなったときにどうするかとか。そういう意味では、例えば、柏崎刈羽原子力発電所であったときに、こちらにあれがこう流れないようなこととか、あとは、津波が来ても、新潟市内の大規模施設であれば北陸から全部受け入れができるかというレベルですよ、多分。

よろしいですか、特になければ。

(大野委員)

土地はたくさんありますから、こう見ると、駐車場もたくさんありますから、その辺があれですよ、何か、いざというときの。

(山口委員)

防災面は、市が地域防災計画で細かく作られていると思うので、やはりまたその辺の所管との調整も必要だと思いますし、資料 10 で、鳥屋野潟南部を示されたところですけど、ここは高速道路のアクセス、結節点でもありますから、物流拠点にもなりうるところだし、あとは消防局と市民病院がありますので、救急、医療連携といった部分もキーワードとしては出てくるかと思しますので、そこは事務局お任せで、どこまで市として必要なのかということかと思えます。感想です。

(西原会長)

では、よろしいですか。

では、今日は三つの議論をしていただきましたが、全体を通して何か、どうしても言っておきたいことなどがありましたら。

(大野委員)

紹介です。この手の議論は、結局、言っても形にならなかつたり、どうなのだろうと思ったので、昔の資料を引っ張り出してきまして、1993年の鳥屋野潟南部開発計画という、当時、ワールドカップ前に計算した資料を引っ張り出してきました。私は逆に新潟市はすごいなと思ったのですけれども、資料10の資料が、30年前もそのままです。これを正直、皆さんに紹介したいなというか、素晴らしいなと。まさにこの住居ゾーン、総合スポーツゾーン、国際文化教育ゾーン。一番端っこは今、ここでフィットネスゾーンになっているのですけれども、30年前は総合レクリエーションゾーンということで、まさに30年前に計画したものが形になっているというか、いまだにきちんとなっているというのは、これはとてもすごいことだなと思ったので、皆さんに紹介したいなと思いました。

一つ、細々見ると、実は、陸上競技場と野球場があつて、この計画を見ると、球技場と体育館も図面に入っているのです。後でいいですけれども、これはなぜなくなってしまったのか、少し素朴な疑問で思ったので。あとでこれを皆さん方に回してもらえばいいと思うのですけれども、この計画通りなのです。それで、ないのが、今言ったように球技場と体育館がなくなっているので、少しもったいなかったなと思いながら。あとで事務局にあれば、また皆さんに回していただければと思います。紹介でした。

(西原会長)

ありがとうございました。

ほかにいかがですか。

よろしいですか。では、今日は皆様からいろいろご意見をいただきまして、また具体化が進んだのではないかと考えております。

では、事務局にお返しします。よろしくお願いいたします。

(司 会)

西原会長、スムーズな進行、誠にありがとうございました。委員の皆様におかれましても、

貴重なご意見をいただき、感謝申し上げます。本日頂戴しました意見を踏まえて、次回以降進んでまいりますので、引き続きよろしくお願いいたします。

次第3、その他とありますが、事務局からは特にありません。委員の皆様からはいかがでしょう。

それでは、以上をもちまして、第2回新潟市スポーツ施設の未来構想会議を終了いたします。本日は、誠にありがとうございました。